

(屋久島)適応策及びモニタリングプログラム修正案について委員意見と対応

項目	会議年	委員	委員会	意見	対応	ページ		
適応策の検討	4地域共通	H29①	中村委員	気候変動検討会	「ネットワークの構築」の意味が分かりづらい。何に対してのレジリエンスなのか確認して修正すべき。	人的ネットワークと生態系のネットワークの両方の意味を持たせる記述に変更	1	
		H29①	松本委員	気候変動検討会	気温等、R ² で示す際には有意性の検定をするべき。また、前後の期間の比較にしてもt検定等の情報を入れるべき。	有意性の検定、t検定を行う	3～	
		H28②	工藤委員	知床科学委員会	レファレンスデータとしてはより長期的な平均値を参照するのが良い。	「1980-89年と2006-2015年」の10年の比較から、「1978-97年と1997-2016」の20年の比較に変更	3	
		H28②	工藤委員	知床科学委員会	気温の解析については、年平均と同時に季節別の温度の経年変化についても解析した方が良い。	気温について、年間の変動に加え、季節別の経年変化を追加	4	
		H29①	松本委員	気候変動検討会	将来予測についてしっかりとしたデータがない中で「ほぼ確実」の表現は少し疑問が出る。	「ほぼ確実と考えられる」から「可能性は高いと考えられる」に変更	4	
		H29①	松本委員	気候変動検討会	積雪や降水量に関してもできるだけ長く、気温と同じ期間をとった方が良い。	80年代から引用していたデータを76年から引用する	5	
	H29①	松本委員	気候変動検討会	気温を季節ごとに整理するのであれば、降水量も季節ごとの情報があると良い。	降水量についても季節ごとにデータを整理する	6		
	H28②	梶本委員	気候変動検討会	ヤクシマダケにヤクスギがダイレクトに侵入して更新が進んだ印象を受ける資料。一斉開花などの要因があればそれを正確に記述するべき。	ヤクシマダケ群落の【ストレス要因が与える影響】に、一斉開花について追記した	10		
	H29①	中静委員	気候変動検討会	標高毎の面積割合について、調査区画全体に対する%ではなく、標高毎の調査面積に対する%で表したほうが、より分かりやすい	標高毎の調査面積に対する%に変更	12		
	H29①	中村委員	気候変動検討会	植生図が載っていて分かりやすい。他地域の航空写真判読についてもこのように図も併せて記載すべき	植生区分について表、図を追加	12		
	H29①	田中委員	気候変動検討会	ヤクシマダケ、ヤクスギの空中写真データについて、現場はどうなっているのか裏づけの検証データが必要。	植生区分について表、図を追加	12		
	H29①	松本委員	気候変動検討会	イボミズゴケの植被率とイボミズゴケを優占とする湿原植生群落の解釈をしっかりと記載すべき	解釈、定義を明確にして記載(図タイトル中)	13		
	H29①	大河内委員	気候変動検討会	「植被率」ではなく、「群落の中でミズゴケが占める割合」など定義をしっかりと記載すべき	解釈、定義を明確にして記載(図タイトル中)	13		
	H28②	中村委員	気候変動検討会	土砂堆積量のグラフだけでは分かりづらい。	H18,22,27年度における植物群落図を追加し、コケや土砂堆積箇所の変遷を追えるようにした。	14～19		
	H29①	松田委員	屋久島科学委員会	湿原本来の遷移が進んでいる状況においてニホンジカと温暖化の影響が変化を加速させているため、この部分の分析が必要である。	植生の有無や雨量の増減が湿原に与える影響や、水の流れについてヒアリング	—		
	H29①	荒田委員	屋久島科学委員会	小花之江河では、メタンガスによる異臭があるのでどういう状況で発生しているのか。またこれも湿原の衰退原因になっているのではないか。				
	H29①	矢原委員	屋久島科学委員会	湿原の水収支に詳しい専門家にヒアリングを実施する必要があるのではないか。ミズゴケを含めて植生がシカに採食されると蒸散が減って暖かくなるとか、流れにも影響が出ることがあるが、雨量自体の変化も効いてくる可能性がある周辺の樹木の生長も蒸散量に關係する。生態系全体の水の動きをしっかりと押さえないと湿原の保全に対して適切な対策は取れないのでヒアリングをした方が良い				
	H29①	井村委員	屋久島科学委員会	湿地だけでなく集水域全体のモニタリングを実施する必要がある。湿原がどのエリアから水が入っているかとか集水域全体のモニタリングをしておかないとなかなか難しいと思う。集水域は相当広いので、エリアの環境の変化、シカの状況などのデータが必要となる。湿地を作るプロセスが壊れてしまうと、湿地はそこだけ何とかしようとしてもどうしようもないので、どういったエリアから水が入ってどこに出ていくのか、環境全体を考えなければならないので、そういったデータ収集が必要				
	H29①	松田委員	屋久島科学委員会	気候変動について、花之江河・小花之江河は前よりも明らかに違った状況になってきているかなり顕著な例である。森林総研等、他に研究しているグループはないか。IPCCに報告できる貴重なデータの可能性がある。			要検討	—
	H29①	森川委員	気候変動検討会	登山者からの直接的な土砂流入の影響の根拠となるデータを示すべき			要検討	—
H29①	田中委員	気候変動検討会	植生変化のデータについて、将来またモニタリングとして使用できるように、元の空中写真はシェープファイルを報告書に添付してほしい	権利の部分含め、要確認。できるだけ掲載し、データも添付する	—			
モニタリングプログラム	共通	H28②	田中委員	気候変動検討会	科学委員会のモニタリングプログラムの一部となっている場合、その文言と統一した方がよい。	適宜修正	—	
		H28②	森川委員	気候変動検討会	科学委員会で既にモニタリング計画がある・なしを示すとよい。	既存モニタリングプログラムの有無を追加	—	
		H29①	松本委員	気候変動検討会	アメダスの表記を正しく行うべき	「Amedas」から「AMeDAS」に変更	—	
		H28②	矢原委員	気候変動検討会	黒味岳の環境省のカメラ調査は今でも継続しているのか。それがあればおよその積雪についてはモニタリングしていけるのではないか。	継続していない。	—	